

稲盛ライブラリーのオーラルヒストリーについて

——保存資料の紹介——

梅崎 修¹⁾・塚田 俊彦²⁾

¹⁾ 法政大学キャリアデザイン学部教授

²⁾ 稲盛ライブラリー研究課

1. はじめに

本稿の目的は、稲盛ライブラリーに保存されている京セラ株式会社（以下、京セラ）の口述資料を京セラ・オーラルヒストリーとして位置付け、その資料群を紹介することである。

オーラルヒストリーとは、「聞き手と語り手の共同作業によって、語り手が経験した過去の出来事を語り（narrative）の形で記録に残すこと、又そうして保存された口述資料のこと」を意味する。オーラルヒストリーの対象は幅広く、経済・経営史以外でも政治史、社会史、技術史、文化史などの分野で幅広く利用される研究手法である。企業家研究や経営史に絞ったとしても、多くのインタビューは行われてきた。例えば、社史の編纂一つをとっても、インタビューによって文書資料の偏りや空白を埋めてきたという歴史がある。

しかし、オーラルヒストリーという手法が注目されるまでは、インタビューの記録を公開するという手続きが行われることは少なかった⁽¹⁾。これは、口述資料は文書資料にない情報を補足、もしくは文書資料を文脈的に読むための情報と位置付けられてきたからと考えられる。口述資料は、想起の語りの記録なのであって記憶の不確かさが繰り返し批判されてきた。

たしかに梅崎（2012）でも指摘したように、非文脈的信息に関しては口述資料よりも文書資料の方が正確であることが多い。その一方で、文脈的信息に関しては口述資料の方がより多くの情報を入手できるという傾向もある。

そのような傾向の違いがありつつ、文書資料と口述資料の違いとは「程度」の問題であって、文書資料であっても文脈的信息を入手できるし、過去を回想して書かれた文書資料には非文脈的信息に関して口述資料と同じように不正確になることもある。

歴史研究において重要な違いは、保存形式というより資料の公開の有無である。つまり、インタビュー調査を行った者以外に、同じ資料を使って研究できる、もしくは既存の研究を批判できるという可能性が開かれているかどうか重要である。

このような史料批判の可能性へのこだわりは、社会学、文化人類学などの他学問におけるオーラルヒストリーとは異なる歴史学独自の特徴と言えよう⁽²⁾。見方を変えれば、公開したオー

ラルヒストリーを増やしていけば、歴史研究者はオーラルヒストリーを一つの歴史資料と捉えて積極的に研究にオーラルヒストリーを利用するのではないかと考えられる。

日本における公開を前提にしたオーラルヒストリーについては、御厨貴によってその方法が検討されてきた。御厨によるオーラルヒストリー・プロジェクトでは、インタビューから公開までの手続きを提示している（御厨、2002；2007；2019）。このような共通する手続きを歴史学者が共有することは重要であろう。

2022年から稲盛和夫研究会では、京セラ・オーラルヒストリープロジェクトを開始した。オーラルヒストリーの手続きについては、御厨（2002；2007；2019）に従っている。このオーラルヒストリー・プロジェクトは、清水（2003；2009）のオーラルヒストリーの三つの分類（ライフ・オーラルヒストリー、テーマ・オーラルヒストリー、組織オーラルヒストリー）に従えば、ある組織の対象者を網羅的にインタビューする組織オーラルヒストリーになる⁽³⁾。

加えて、我々は、新規オーラルヒストリーを始めるにあたって、稲盛ライブラリーにどのような口述資料があるかを探索・整理した。その結果、社史編纂のために行われたインタビュー記録が保存されていることがわかった。この口述資料群は、歴史的に貴重な情報が含まれるが、公開のためには許諾などの手続きを必要とする。本稿では、今後の公開までの前段階としてオーラルヒストリーの一覧を紹介し、京セラ・オーラルヒストリープロジェクトの基礎づけ作業としたい。

2. 京セラの社史とオーラルヒストリー

本稿で紹介するオーラルヒストリーは、二つの社史と創立50周年記念ビデオの作成のために行われたものである。

京セラ40周年社史編纂委員会（2000）『果てしない未来への挑戦—京セラ 心の経営40年—』（以下、40年史）は、京セラ株式会社初の社史として編纂されたものである。前史として創業者である稲盛和夫の生い立ちから京セラ創業に先立つ松風工業株式会社での姿を概略述べた後、1959年の京セラ創業から1998年の創立40年に至る京セラの歩みを記載している。社史の制作にあたっては、稲盛とともに創業に参画したメンバーの中で存命の者（伊藤謙介、浜本昭市、岡川健一、徳永秀雄）のほか、創業初期に入社した幹部社員を広く取材している。また、各事業については、当該事業の開始からその後の成長の経緯を最もよく知る部門トップを中心に取材を行った記録である。

次に、京セラ創立50周年社史編纂委員会（2010）『果てしない未来への挑戦—京セラグループ50年の歩み—』（以下、50年史）は、創立41年から50年までの10年分を制作時点の各事業部門トップを中心に取材し、40年史の内容に補筆する形で制作されている。その作成のための取材の口述記録が残っている。

さらに、創立50周年記念ビデオ「挑戦と創造」のために行われた口述記録がある。このビデオは、京セラ創立50周年に際して、創業時の精神を後世に受け継ぐべく制作され、社員に配付されたものである。京セラの創業時を再現した映像であるが、その制作に際して、上記創業メンバーと、経営理念が生まれる発端となった「入社2年目の若手社員の反乱」の当事者2名に

取材を行った内容を記録している。

その他、稲盛ライブラリーでは従来、稲盛和夫の経営者としての歩みを記録するための関係者への取材とその保存整理を進めており、その記録も含まれている。

続いて、インタビュー体制について確認する。まず、40年史、50年史は、その制作をPHP研究所に依頼している。同研究所所属のライターである廣田正行が執筆を担当しており、インタビューも行っている。取材の補佐や内容の録音のためにPHP研究所の制作編集スタッフ（安土世津子、林正義）も同席し、取材者の補助、語り手との調整、および裏付け確認のため京セラの社史編纂事務局スタッフ（吉田進弘、塚田俊彦）も同席している。吉田が技術分野担当で、塚田が経営分野担当として、2名で内容に応じて取材者をサポートした。

なお、このインタビューの目的は、原稿を執筆するために取材者／執筆者が京セラの歴史について理解してもらうことであった。音声は記録され、その多くは文字起こしも行われているが、オーラルヒストリーとして公開する予定はなかった。貴重な歴史証言が含まれるが、インタビューも聞き手が知識を得ることが第一であり、口述資料が一般に読まれることを想定しておらず、語り手の公開への確認、編集作業も行われていない。資料としては、読みにくさはあると言えよう。この資料の一般公開に向けた許諾や編集は今後の課題である。

最後に、50周年記念ビデオ「挑戦と創造」は、大阪の映像制作会社である現代映像株式会社が担当した。この資料は、京セラ創立50周年記念事業として、同社の創業精神を伝えるために、全社員の参加する創立記念式典での上映を目的に制作されたものであり、インタビューの際には大まかなシナリオが作られている。映像化の責任者である梅本承平氏が、映像作品のための編集意図に沿った発言を引き出すために第1回目はインタビュアーを務めた。2回目は1回目のインタビューの詳細な点について引き出すべく、社内の歴史や事情に詳しい会社側事務局であった橋浦佳代が務めた。なお、小倉邦男社長は制作全体の統括責任者として立ち会ったものである。

3. 保存資料の説明

表1に示したのは、オーラルヒストリーとして京セラ・稲盛ライブラリーに保存されている資料の一覧である。それぞれの資料は、取材対象者（敬称略）別にインタビュー、取材時の役職、取材の目的、実施年月日、取材場所、取材者／同席者、文字数（文字起こしされているもの）、データの保存形式という分類項目がある。

それぞれの口述資料群は、大きく分けると、通史と事業史 or 部門史に分けられる。通史については創業初期のメンバーは社内でもほぼ取材を終えている。ただし、創業2年目に入社して国内営業の中心的役割を果たし、稲盛に続いて社長となった安城欽寿は取材できていない。今後のオーラルヒストリー・プロジェクトで調査を行うべきであると言えよう。

次に、40年史までの事業史については、社内で聞き得るメンバーはほぼ取材できている。この資料によって経営史・企業史研究が大きく進展する可能性がある。一方、事業部門以外の間接部門や事業以外の諸活動については一部について取材しているが、現時点では網羅性はない。今後のオーラルヒストリー・プロジェクトの中で、特に経理、経営管理、人事などの面での調

表1 京セラOB等過去のインタビュー取材記録一覧

【通史】

分類	NO.	取材対象者 (敬称略)	取材時の役職	取材の目的	実施年月日	取材場所	取材者/同席者	文字数	データの 保存形式	備考
生い立ちから松風工業まで	1	稲盛和夫(第1回)	京セラ名誉会長、第二電電会長	京セラ40年史社史制作	1998年7月13日	京セラ本社	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	13,325	word data	物故
生い立ち	2	稲盛利則(稲盛和夫の実兄)	元京セラ専務	京セラ40年史社史制作(稲盛名誉会長の生い立ち)		鹿児島市内の自宅	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)	48,620	word data	物故
松風工業時代	3	稲盛和夫(第2回)	京セラ名誉会長、第二電電会長	京セラ40年史社史制作	1998年8月31日		廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	25,092	word data	物故
京セラ通史	4	稲盛和夫(第3回)	京セラ名誉会長、第二電電会長	京セラ40年史社史制作	1998年10月1日		廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	16,018	word data	物故
京セラ通史	5	稲盛和夫(第4回)	京セラ名誉会長、第二電電会長	京セラ40年史社史制作	1998年11月4日		廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	34,558	word data	物故
京セラ通史	6	稲盛和夫(第5回)	京セラ名誉会長、第二電電会長	京セラ40年史社史制作	1998年11月12日	京セラ本社	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	16,733	word data	物故
第二電電事業	7	稲盛和夫(第6回)	京セラ名誉会長、第二電電会長	京セラ40年史社史制作(第二電電に関する話)	1999年10月1日		廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	18,473	word data	物故
松風工業時代	8	伊藤謙介(第1回)	京セラ会長	京セラ40年史社史制作	1998年3月16日	京セラ本社 社史接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	25,850	word data	
京セラ通史	9	伊藤謙介(第2回)	京セラ会長	京セラ40年史社史制作	1998年3月31日	京セラ本社 社史接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	26,919	word data	
京セラ通史	10	伊藤謙介(第3回)	京セラ会長	京セラ40年史社史制作	1998年4月7日	京セラ本社 社史接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	22,412	word data	
京セラ通史	11	伊藤謙介(第4回)	京セラ会長	京セラ40年史社史制作	1998年5月28日	京セラ本社 社史接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	33,203	word data	
松風工業時代～京セラ通史	12	浜本昭市	ホテル京セラ社長	京セラ40年史社史制作	1997年10月31日	ホテル京セラ	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	101,739	word data	
松風工業時代～京セラ通史	13	岡川健一	中国セルラー専務	京セラ40年史社史制作	1997年11月19日	京セラ本社 社史接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	110,733	word data	物故
松風工業時代～京セラ通史	14	徳永秀雄(第1回)	元京セラ常務	京セラ40年史社史制作	1997年12月2日	京セラ本社 社史接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	18,880	word data	
松風工業時代～京セラ通史	15	徳永秀雄(第2回)	元京セラ常務	京セラ40年史社史制作		京セラ本社 社史接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆/安土世津子(PHP研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	17,794	word data	
京セラ通史	16	青山令道	元京セラ常務、元DDI常務	京セラ40年史社史制作(京セラ初期の開発活動と総務管理部門の歴史)	1997年	京都市内 社史接室 の自宅	塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)/片岡登紀子(京セラ広報部) ※執筆者と日程が合わず、2名が代行取材	55,211	word data	物故

表1 続き

分類	NO.	取材対象者 (敬称略)	取材時の役職	取材の目的	実施年月日	取材場所	取材者/同席者	文字数	データの 保存形式	備考
フィレンセラミック ケ部品事業	14	久芳徹夫、中村順、奥田憲夫、田中肇、高木浩次郎	久芳/フィレンセラミック事業本部長 中村/同副本部長 三原/同本部長 奥田/同営業部長 田中/同営業部長 高木/同本部長	京セラ50年史(2000～2009年分)社史制作 過去10年間のフィレンセラミック部品の歩み	2008年	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(株)林正義(株)研究所、編集(株)塚田俊彦(株)京セラ、社史編纂事務局	41,247	①word data ②カセット テープ	
自動車部品事業	15	梶島登士巳、黒田光則	梶島/自動車部品事業部長 黒田/自動車部品営業部長	京セラ50年史(2000～2009年分)社史制作 過去10年間の自動車部品事業の歩み	2008年10月9日 14時～16時	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(株)林正義(株)研究所、編集(株)塚田俊彦(株)京セラ、社史編纂事務局	23,231	①word data ②カセット テープ	
半導体部品事業	16	久木寿夫、西川美彦	久木/半導体部品事業本部長 西川/半導体部品副本部長(営業担当)	京セラ40年史社史制作 (半導体部品事業の歩み)	1997年12月25日	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(株)安土世津子(株)研究所、編集(株)塚田俊彦(株)京セラ、社史編纂事務局	45,582	word data	
半導体部品事業	17	久芳徹夫、山口悟郎、瀧野之、高安元、瀧野太洋、吉田英雄、土岐博、松本洋、前耕司、西山洋尔、福井雅弘、富田清志	久芳/半導体部品事業本部長 山口/同副本部長 瀧野/同統括事業部長 瀧野/同マーケティング部長 吉田/同営業部長 土岐/同技術部長 松本/同本部室責任者 前/京セラSLCテクノロジー(株)社長 西山/同専務 福井/同取締役 富田/同技術部長	京セラ50年史(2000～2009年分)社史制作 過去10年間の半導体部品事業(セラミック、有機とも)の歩み	2008年	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(株)林正義(株)研究所、編集(株)塚田俊彦(株)京セラ、社史編纂事務局	46,800	①word data ②カセット テープ	
電子部品事業	18	坂東安彦、小森雄三、石山秀樹	坂東/監査役 小森/電子部品事業本部長 石山/中央研究所長	京セラ40年史社史制作 (電子部品事業の歩み)	1997年11月25日	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(株)安土世津子(株)研究所、編集(株)塚田俊彦(株)京セラ、社史編纂事務局	49,279	word data	
電子部品事業	19	野元修、井上英明、佐分利潔	野元/電子部品事業本部長 井上/同マーケティング部長 佐分利/同マーケティング部長	京セラ50年史(2000～2009年分)社史制作 過去10年間の電子部品事業の歩み	2008年10月20日 9時～11時	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(株)林正義(株)研究所、編集(株)塚田俊彦(株)京セラ、社史編纂事務局	28,106	①word data ②カセット テープ	
薄膜部品事業	20	永谷健一、南慶二郎、西野昭、福岡宏美、富嶋、松山千秋、宮本直興	永谷/薄膜部品事業本部長 南/サーマルプリントヘッド事業部長 西野/液晶事業部長 福岡/液晶事業部副部長 有宗/MOD開発部長 安富/センサ事業部長 松山/秘書室(サーマルプリントヘッド開発担当者) 宮本/アモルファスシリコンドラム開発担当者	京セラ40年史社史制作 (薄膜部品事業の歩み)	1997年12月10日	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(株)安土世津子(株)研究所、編集(株)塚田俊彦(株)京セラ、社史編纂事務局	62,648	word data	

表1 続き

分類	NO.	取材対象者 (敬称略)	取材時の役職	取材の目的	実施年月日	取材場所	取材者/同席者	文字数	データの 保存形式	備考
薄膜部品/単結晶 事業	21	石籠鴻吉	取締役研究開発本部長	京セラ40年史(社史制作 (アモルファスシリコ ンドラムの開発、薄膜 事業の歩み、近年の研 究活動)	1997年12月15日	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	39,588	word data	
薄膜部品/液晶事 業	22	鷹尾仁志	薄膜部品事業本部長	京セラ50年史(2000 ～2009年分)社史制作 過去10年間の液晶事 業の歩み	2008年11月17日 10時～12時	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	33,325	①word data ②カセット テープ	
薄膜部品/液晶事 業	23	大家英孝、東 郷勝之	大家/ディスプレイ事業本部 本部室 東郷/同新規ビジネス開発部	京セラ50年史(2000 ～2009年分)社史制作 過去10年間の液晶事 業の歩み	2008年12月25日 10時～12時	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦、吉田進弘(京セラ、社 史編纂事務局)	25,595	①word data ②カセット テープ	
宝飾(クレスラン パール)事業	24	吉田春雄、笹 岡誠	吉田/常務応用商品事業部長 笹岡/応用商品事業部	京セラ40年史(社史制作 (宝飾応用商品事業事 業の歩み)	1997年11月29日	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	62,180	word data	笹岡氏は物故
宝飾(クレスラン パール)事業	25	中野勇二	宝飾応用商品事業部副事業部長	京セラ50年史(2000 ～2009年分)社史制作 過去10年間の宝飾応 用商品事業の歩み	2008年	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	34,029	①word data ②カセット テープ	
生体用セラミック 事業	26	三輪孝、藤沢 章	三輪/取締役バイオセラミク 事業部長 藤沢/バイオセラミクス 事業部長	京セラ40年史(社史制作 (バイオセラミクス事 業の歩み)	1997年11月25日	京セラ島 丸事業所	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	35,006	word data	
生体用セラミック 事業	27	興松英昭	日本メディカルマテリアル (株)(JMM)社長	京セラ50年史(2000 ～2009年分)社史制作 過去10年間のJMM の歩み	2008年12月17日 15時30分～17 時30分	JMM 本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	35,793	①word data ②カセット テープ	
ソーラーエネ ルギー事業と研究開 発	28	木村謙次郎	元常務	京セラ40年史(社史制作 (太陽電池の開発と初 期の事業展開と近年の 研究活動の歩み)	1998年	京都の自 宅	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	44,016	word data	物故
ソーラーエネ ルギー事業	29	手塚博文、馬 場泰	手塚/取締役ソーラーエネ ルギー事業部長 馬場/ソーラーエネ ルギー事業部参事	京セラ40年史(社史制作 (ソーラーエネ ルギー事業の歩み)	1997年12月5日	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	39,618	word data	馬場氏は物故
ソーラーエネ ルギー事業と研究開 発	30	前田辰巳	ソーラーエネ ルギー事業部長	京セラ50年史(2000 ～2009年分)社史制作 過去10年間のソー ラーエネルギー事業の 歩み	2008年11月27日 15時～16時30分	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編纂事務局)	23,234	word data	
ソーラーエネ ルギー事業	31	北村信夫	ソーラーエネ ルギー事業部 副本部長	京セラ50年史(2000 ～2009年分)社史制作 過去10年間のソー ラーエネルギー事業の 歩み	2008年11月25日 10時～12時	京セラ本 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆者/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦、吉田進弘(京セラ、社 史編纂事務局)	32,279	word data	

表 1 続き

分類	NO.	取材対象者 (敬称略)	取材時の役職	取材の目的	実施年月日	取材場所	取材者 / 同席者	文字数	データの 保存形式	備考
工具事業	32	明石靖夫、石崎恒夫、梅枝英二	明石 / 常務機械工具事業本部長 石崎 / 機械工具事業本部長 梅枝 / 機械工具事業本部長 (技術担当)	京セラ 40 年史(2000 年分) 社史制作 (機械工具事業の歩み)	1997 年 11 月 28 日	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	88,759	word data	
工具事業	33	財部行広	機械工具事業本部長	京セラ 50 年史(2000 年分) 社史制作 過去 10 年間の機械工 具事業の歩み	2008 年 10 月 28 日 16 時～18 時	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	29,854	① word data ② カセット テープ	
通信機器事業	34	手代木俊彦、 椎崎正行	手代木 / 顧問・元常務(通信機器担当) 椎崎 / 通信情報機器営業部長	京セラ 40 年史(2000 年分) 社史制作 (通信情報事業の歩み)	1997 年 12 月 18 日	京セラ用賀 事業所	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	42,594	word data	椎崎氏は物故
通信機器事業(研究開発)	35	神野純一、福村由紀雄、村上和弘、池田信彦	神野 / 機器研究開発本部長 福村 / 同副本部長 村上 / 横浜 R&D センター副 所長 池田 / 同第 1 研究部責任者	京セラ 50 年史(2000 年分) 社史制作 過去 10 年間の機器研 究の歩み	2008 年 11 月 6 日 15 時 30 分～17 時 30 分	京セラ横濱 事業所 応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	26,609	① word data ② カセット テープ	
通信機器事業	36	山村雄三、山本康行、神野純一	山村 / 通信機器事業本部長 山本 / 同副本部長 神野 / 機器研究開発本部長	京セラ 50 年史(2000 年分) 社史制作 過去 10 年間の通信機 器関連事業の歩み	2008 年 11 月 6 日 13 時～15 時	京セラ横濱 事業所 応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	34,190	① word data ② カセット テープ	
プリンタ事業	37	関浩二	通信情報機器事業本部長 部長(情報機器担当)	京セラ 40 年史(2000 年分) 社史制作 (プリンタ事業の歩み)	1997 年 12 月 18 日	京セラ用賀 事業所	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	53,991	word data	
カメラ事業	38	秋山泰一、宮前武彦、田中好信	秋山 / 京セラオプティクス専務 宮前 / 京セラカメラ専務 田中 / 光学機器開発部長	京セラ 40 年史(2000 年分) 社史制作 (光学機器事業の歩み)	1997 年 12 月 17 日	京セラ原宿 事業所	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	85,536	word data	
経営管理、電算部門	39	森田直行	京セラコミュニケーションシステム 社長	京セラ 40 年史(2000 年分) 社史制作 (経営管理部門と京セラ コミュニケーション システムの歩み)	1997 年 12 月 5 日	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	44,280	word data	
物流部門	40	和泉政義	物流事業部長	京セラ 50 年史(2000 年分) 社史制作 過去 10 年間の物流事 業部の歩み	2008 年 12 月 24 日 14 時～16 時	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/林正義(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	27,305	① word data ② カセット テープ	
環境・教育部門	41	作見壽、河合寿郎、鍛冶屋公治、高津正紀、玉泉一男、北野卓	作見 / 環境・教育本部長 河合 / 環境経営部長 鍛冶屋 / 建築設備部長 高津 / 教育企画部長 玉泉 / リスク管理部長 北野 / 不動産事業部長	京セラ 50 年史(2000 年分) 社史制作 過去 10 年間の環境保 全への取り組み、社員 教育活動の歩み	2008 年 12 月 26 日 13 時 30 分～16 時	京セラ本社 社応接室	廣田正行(株)ワード、社史執筆(者)/安土世津子(PHP 研究所、編集者)/塚田俊彦(京セラ、社史編集事務局)	38,235	① word data ② カセット テープ	高津氏は物故

表1 続き
【関連会社史】

分類	NO.	取材対象者 (敬称略)	取材時の役職	取材の目的	実施年月日	取材場所	取材者/同席者	文字数	データの 保存形式	備考
関連会社 (KCCS)	1	森田直行	京セラコミュニケーションシステム (株) (KCCS) 社長	京セラ50年史 (2000～2009年分) 社史制作 過去10年間のKCCSグループの歩み	2008年10月28日 9時30分～11時30分	京セラ本社 社応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆者) / 林正義 (PHP 研究所、編集者) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	34,988	① word data ② カセット テープ	
関連会社 (KOP)	2	坪野勉、柴田孝信、武井正一、古瀬昌司、小林克誌	坪野 / 京セラオプテック (株) 社長 柴田 / 同常務総務統括責任者 武井 / 同企画室責任者 古瀬 / 同開発技術部責任者 小林 / 同光学技術部責任者	京セラ50年史 (2000～2009年分) 社史制作 過去10年間の京セラオプテックの歩み	2008年10月29日	KOP本社 応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆者) / 林正義 (PHP 研究所、編集者) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	31,080	① word data ② カセット テープ	
関連会社 (KRD)	3	石谷二郎	京セラ興産 (株) 社長	京セラ50年史 (2000～2009年分) 社史制作 過去10年間の京セラ興産グループの歩み	2008年11月20日 11時～12時	京セラ本社 社応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆者) / 林正義 (PHP 研究所、編集者) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	14,270	① word data ② カセット テープ	
関連会社 (KKC)	4	岸本勲夫、小森雄三	岸本 / 京セラキセンキ (株) 社長 小森 / 同専務	京セラ50年史 (2000～2009年分) 社史制作 過去10年間の京セラキセンキグループの歩み	2008年11月5日 16時～18時	KKC本社 応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆者) / 林正義 (PHP 研究所、編集者) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	40,083	① word data ② カセット テープ	
関連会社 (KEC)	5	山村雄三	京セラエルコ (株) 社長	京セラ50年史 (2000～2009年分) 社史制作 過去10年間の京セラエルコの歩み	2008年11月6日 10時～12時	京セラ横浜 事業所 応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆者) / 林正義 (PHP 研究所、編集者) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	28,933	① word data ② カセット テープ	
関連会社 (KMC)	6	駒口克己、川崎利政	駒口 / 京セラミタ (株) 社長 川崎利政 / 同企業広報部長	京セラ50年史 (2000～2009年分) 社史制作 過去10年間の京セラミタグループの歩み	2008年11月7日 10時～12時	KMC本社 応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆者) / 林正義 (PHP 研究所、編集者) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	40,419	word data	
関連会社 (KCC)	7	山崎巖、永田勉、長谷川光夫	山崎 / 京セラケミカル (株) 社長 永田 / 同常務 長谷川 / 同総務部責任者	京セラ50年史 (2000～2009年分) 社史制作 京セラグループ入り後の京セラケミカルグループの歩み	2008年10月29日	KCC本社 応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆者) / 林正義 (PHP 研究所、編集者) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	22,904	① word data ② カセット テープ	

表 1 続き
【個別テーマ】

分類	NO.	取材対象者 (敬称略)	取材時の役職	取材の目的	実施年月日	取材場所	取材者/同席者	文字数	データの 保存形式	備考
創業当初の京セラ	1	稲盛和夫 (第1回)	名誉会長	京セラ50周年記念ビデオ「挑戦と創造」制作のための取材	2008年10月16日15時～16時30分	京セラ本社特別食堂	梅本 (現代映像 (株)、インタビュアー) / 小倉 (株) 現代映像社長) / 大田嘉仁 (京セラ秘書室長) / 橋浦佳代 (京セラ経営研究部、制作事務局)	25,236	① word data ② MP3 ③ DVD	物故
創業当初の京セラ	2	稲盛和夫 (第2回)	名誉会長	京セラ50周年記念ビデオ「挑戦と創造」制作のための取材	2008年11月7日10時30分～12時	京セラ本社特別食堂	橋浦佳代 (京セラ経営研究部、制作事務局、インタビュアー) / カメラマン (現代映像 (株))	24,492	① word data ② MP3 ③ DVD	物故
創業当初の京セラ	3	伊藤謙介	顧問・元会長	京セラ50周年記念ビデオ「挑戦と創造」制作のための取材	2008年11月28日10時30分～12時	京セラ本社19F応接室③	橋浦佳代 (京セラ経営研究部、制作事務局、インタビュアー) / カメラマン (現代映像 (株))	36,748	① word data ② MP3	
創業当初の京セラ	4	徳永秀雄	元京セラ常務 (創業メンバー)	京セラ50周年記念ビデオ「挑戦と創造」制作のための取材	2008年11月12日15時～16時30分	京セラ本社19F応接室③	橋浦佳代 (京セラ経営研究部、制作事務局、インタビュアー) / カメラマン (現代映像 (株))	21,598	① word data ② MP3	
創業当初の京セラ	5	浜本昭市	元京セラ専務 (創業メンバー)	京セラ50周年記念ビデオ「挑戦と創造」制作のための取材	2008年11月12日17時～18時	京セラ本社19F応接室③	梅本 (現代映像 (株)、インタビュアー) / 大田嘉仁 (京セラ秘書室長) / 橋浦佳代 (京セラ経営研究部、制作事務局) / 塚田俊彦 (京セラ文化事業課) / カメラマン (現代映像 (株))	25,981	① word data ② MP3	
創業当初の京セラ	6	波戸元省三	元社員 (2年目社員の反乱メンバー)	京セラ50周年記念ビデオ「挑戦と創造」制作のための取材	2008年11月11日14時30分～16時	京セラ本社19F応接室③	梅本 (現代映像 (株)、インタビュアー) / 橋浦佳代 (京セラ経営研究部、制作事務局) / カメラマン (現代映像 (株))	20,242	① word data ② MP3	
創業当初の京セラ	7	福井良夫	元社員 (2年目社員の反乱メンバー)	京セラ50周年記念ビデオ「挑戦と創造」制作のための取材	2008年11月28日10時15分～11時45分	京セラ本社19F応接室③	橋浦佳代 (京セラ経営研究部、制作事務局、インタビュアー) / 大田嘉仁 (京セラ秘書室長) / カメラマン (現代映像 (株))	27,696	① word data ② MP3	
創業当初の京セラ	8	岡川健一	元専務 (創業メンバー)	創業者インタビュ取材記録	2002年8月22日	京セラ経営研究所 応接室	木谷重幸 (京セラ経営研究部、インタビュアー) / 橋浦佳代 (京セラ経営研究部) / 長谷部達成 (OB)	41,640	word data	物故
創業当初の京セラ	9	徳永秀雄	元常務 (創業メンバー)	創業者インタビュ取材記録	2002年8月22日	京セラ経営研究所 応接室	粕谷昌志 (京セラ経営研究部、インタビュアー) / 岩崎友彦 (京セラ経営研究部)	40,246	word data	
創業当初の京セラ	10	浜本昭市 (第1部)	元専務 (創業メンバー)	創業者インタビュ取材記録	2002年10月24日	京セラ経営研究所 応接室	木谷重幸 (京セラ経営研究部、インタビュアー) / 橋浦佳代 (京セラ経営研究部、インタビュアー)	10,353	word data	
創業当初の京セラ	11	浜本昭市 (第2部)	元専務 (創業メンバー)	創業者インタビュ取材記録	2002年10月24日	京セラ経営研究所 応接室	木谷重幸 (京セラ経営研究部、インタビュアー) / 橋浦佳代 (京セラ経営研究部、インタビュアー)	13,713	word data	
創業当初の京セラ	12	浜本昭市 (第3部)	元専務 (創業メンバー)	創業者インタビュ取材記録	2002年10月24日	京セラ経営研究所 応接室	木谷重幸 (京セラ経営研究部、インタビュアー) / 橋浦佳代 (京セラ経営研究部、インタビュアー)	18,066	word data	
創業当初の京セラ	13	山口靖彦	元松下電子工業 (株) 資材課長 (創業時の恩人の一人)	創業者インタビュ取材記録	2003年6月16日	京セラ経営研究所 応接室	木谷重幸 (京セラ経営研究部、インタビュアー) / 岩崎友彦 (京セラ経営研究部) / 大田嘉仁 (京セラ秘書室長)	30,085	word data	物故
個別テーマ (IBM用サブストレートの開発、ソ連へのプリント輸出)	14	近藤敏	京セラコミュニケーションシステム (株) 常務	京セラ40年史制作 (IBMサブストレートの量産、ソ連へのプリント輸出など)	1997年12月3日	京セラコミュニケーションシステム本社 応接室	廣田正行 (株) ワード、社史執筆) / 安土世津子 (PHP研究所、編集) / 塚田俊彦 (京セラ、社史編集事務局)	48,076	word data	

査を行うことが課題である。

4. 今後の課題と展望

本稿で紹介してきた京セラのオーラルヒストリーは、稲盛和夫研究、京セラ研究において活用されるべき資料群である。利用者が増えることで企業家研究や経営史研究の発展に寄与すると考えられる。今回のリスト化は、その公開のための第一歩と言えよう。

なお、今後の公開に向けてはいくつかの準備が必要になる。具体的に取り組むべき作業は、①公開の許諾を取ること、②語り手の指示に応じて訂正を行うこと、③小見出しをつけるなどの編集を行うことである。これらの作業を行うことで公開できる資料群となる。

資料をどのような形で保存・公開するかについても、今後の課題であろう。まず、公開のルールを稲盛ライブラリーに来てもらう形で行うか、稲盛ライブラリーのホームページから読める形にするのかも検討しなければならないであろう。

このような資料群が整理されることによって、新しいオーラルヒストリーの計画も進められる。この資料群に含まれない対象者へのインタビューはもちろんのこと、記録を読むことで語られていないことを語っていただくというインタビュー計画も考えるべきであろう。

稲盛和夫研究会では、2022年より京セラ・オーラルヒストリープロジェクトが開始した。この新しい調査と既存の資料群の組み合わせによって新しい研究を生み出すことを目指している。

注

- (1) むしろジャーナリズムの世界に研究者が参加し、読み物としてのオーラルヒストリーが行われてきた。現在では、経済史・経営史の領域で今でも利用される資料となっている。例えば、安藤良雄編著『昭和経済史への証言 上中下』（毎日新聞社、1965-1966）、中村隆英・伊藤隆・原朗編『現代史を創る人びと 1~4』（毎日新聞社、1971-1972）、エコノミスト編集部編『戦後産業史への証言 1~5』（毎日新聞社、1977-1979）、エコノミスト編集部編『高度経済成長への証言 上・下』（日本経済評論社、1999）である。
- (2) 保莉（2004）のように人々の記憶や歴史実践について従来の実証主義の歴史学とは異なるやり方で挑戦した「歴史」研究もあることに留意しておきたい。
- (3) 企業家の人生史を長時間かけて聞くライフ・オーラルヒストリーとしては、中内・御厨編著（2009）や御厨・橋本・鷺田編（2015）などがあげられる。また組織オーラルヒストリーとしては、梅崎が実施した日本生産性本部のオーラルヒストリーなどがある（政策研究大学院大学（2003a）『生産性運動オーラル・ヒストリー《労働部編》』全3巻、（2003b）『生産性運動オーラル・ヒストリー《国際部編》』全2巻、（2005a）『生産性運動オーラル・ヒストリー《経営開発部編》』）。

文献一覧

- 梅崎修（2012）「オーラルヒストリーによって何を分析するのか—労働史における〈オーラリティー〉の可能性」、『社会政策』第4巻第1号、30-42頁。
- 清水唯一朗（2003）「日本におけるオーラルヒストリー—その現状と課題、方法論をめぐって」、KEIO-GSEC CRONOS WPs、03-004。

- 清水唯一朗（2009）「オーラル・ヒストリーの可能性—仮説の発見と実証」、『RPSPP Discussion Paper Series』第4号、1-25頁。
- 中内潤・御厨貴編著（2009）『中内功 生涯を流通革命に献げた男（中内功シリーズ）』千倉書房。
- 保莉実（2004）『ラディカル・オーラル・ヒストリー オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』御茶の水書房。
- 御厨貴（2002）『オーラル・ヒストリー—現代史のための口述記録』中央公論新社。
- 御厨貴編（2007）『オーラル・ヒストリー入門（岩波テキストボックス）』岩波書店。
- 御厨貴編（2019）『オーラル・ヒストリーに何ができるか—作り方から使い方まで』岩波書店。
- 御厨貴・橋本寿朗・鷺田清一編（2015）『わが記憶、わが記録—堤清二×辻井喬オーラルヒストリー』中央公論新社。

The Oral History Archives at the Inamori Library: Introduction to Preserved Materials

Osamu Umezaki¹⁾, Toshihiko Tsukada²⁾

¹⁾Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, Hosei University

²⁾The Inamori Library Research Section

This study introduces the KYOCERA Corporation's oral history materials preserved in the Inamori Library. Oral history is defined as oral recordings of past events experienced by the narrator through the joint efforts of the listener and the narrator. It also included the preservation of oral materials. The interviews for the companies' histories and the 50th anniversary film are stored in the archives of the Inamori Library. This list will be prepared for future public access and would be useful for the research of the KYOCERA Oral History Project, which began in 2022.